



横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

あおぞら保育園

平成 29 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	6
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	9
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	10
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	11
評価領域Ⅵ 経営管理.....	12
利用者家族アンケート分析.....	13
利用者本人調査.....	17
事業者コメント.....	19

◆ 実施概要 ◆

事業所名	あおぞら保育園	
報告書作成日	平成 29 年 2 月 21 日	(評価に要した期間 5 カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成 28 年 10 月 24 日～12 月 16 日】
 - ・職員が個々に記入していった。その後、まず、クラスごとに一度まとめ、前半と後半に分け職員会議で検討した。
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：平成 28 年 11 月 14 日～11 月 28 日】
 - 配 付：全園児の保護者（133 家族）に対して、園から手渡しした。
 - 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成 29 年 1 月 18 日、1 月 20 日】
 - 第 1 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長、主任）
 - 第 2 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査
 - (0～2 歳児クラス、3～5 歳児のクラスリーダー保育士各 1 名、一時保育（すみれ）職員、管理栄養士、新入職職員、事務主任)
 - 事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成 29 年 1 月 18 日、1 月 20 日】
 - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排泄、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
 - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。

◆ 評価結果についての講評 ◆

【施設の概要】

あおぞら保育園は横浜市営地下鉄ブルーライン「片倉町駅」あるいは「岸根公園駅」から徒歩 10 分ほどの丘の上にあります。周囲は住宅地ですが、近くには野球場、武道館といったスポーツ関連の施設だけでなく、広大な原っぱや「忍者とりで」というアスレチックの設備が取り入れられている岸根公園あり、毎日の散歩を楽しむことができます。

あおぞら保育園は 1955 年 9 月に「六角橋地域に保育所を」と 9 人の母親が集まって共同保育を開始したことから始まりました。1956 年 1 月に現住所に園舎を完成させ、1959 年 10 月に「あおぞら保育園」と改名しました。運営法人は他に神奈川区に 1 園、金沢区に 1 園保育園を運営しています。

園は、通常の保育事業に加えて、一時保育事業、24 時間緊急一時保育を実施しています。そのために園舎には一時保育室や夜間専用の保育室を備えています。園舎は鉄筋の 2 階建てで、屋上では夏にプールを置くことができます。園庭にはたくさんの遊具と、2 階から避難用の滑り台が設置されています。

定員は 120 名、開園時間は平日（月曜日～金曜日）は 7:00～20:00、土曜日は 7:00～18:30 となっています。あおぞらの理念として「地域の母親たちの要求から生まれて共同保育の精神を受け継ぎ、『保育は常時教育である』として子ども一人ひとりの全面発達を保障する」としており、保育目標が「・ともだちの中で全身を使って思いっきり遊べる子をめざす。・子育てという重大な仕事を父母 地域との連携をさらに深めながらおしすすめる」としています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは自由に、のびのびと生活し、保育士たちはゆったりと見守っています

近隣の岸根公園には頻繁に訪れています。公園に入ると保育士たちは大きな決まり事だけを作って、あとは子どもたちが自由に遊ぶのをゆったりと見守っています。20mほどの急勾配の土手では、一気に駆け上がったたりかなりのスピードで駆け下りたり、木登りする子ども、葉っぱをとって笹ぶえのような遊びをする子どもなど、思い思いに遊んでいます。「忍者とりで」には様々な仕掛けがありますが、年齢によってチャレンジする内容が異なります。例えば 4 歳児ではボルダリングに挑戦したり、ネットのトンネルを駆け抜けたり、ロープを使わずに板の斜面を駆け上がったたり、思い切り体を動かして遊んでいます。

園内では朝の自由時間には、ハンバーガー屋さんごっこをしています。色紙でハンバーガー、フライドポテト、入れ物の箱、メニューなどを本物そっくりに作っています。調理器具は段ボールで作り、調理する人、販売員、お客さんなど自分たちで役を決めて、「いらっしゃいませー!」「ハンバーガーとシェイクとポテトをください」「お持ち帰りもできまーす」と本物さながらの演技をしています。別のクラスでは男の子たちがブロック遊びをしています。ブロックで自動車、ロボット、飛行機などさまざまなものを作っています。お絵かきをしている子どもは、自分で描いた絵をはさみで切り取り、独創的な作品ができあがっていきます。給食の時間は、子どもたちは自分たちのペースで楽しく食事しています。早く食べ終えた子どもは、歯磨きをして絵本を読んでいます。ゆっくり食べている子どもにも、保育士は特に急がせることはありません。

このように、子どもたちは、主体性を尊重されながら自由にのびのびと生活を楽しんでいます。

●地域支援活動への取り組みが積極的に行われています

園は地域の母親たちの切実なニーズから設立した歴史があり、地域の子育て支援に関して、熱心な取り組みが数多くあります。まず一時保育は、通常のクラスとは別に、独立クラスを設けて、専任の職員をつけて

専用の部屋で毎日運営しています。そこでは、20名程度の登録者を対象として、1日10名程度の子どもが登園しています。24時間型緊急一時保育は急な仕事、入院、冠婚葬祭などで、子どもを預けなければならなくなった場合に、夜間・宿泊を含め、365日24時間一時的に保育するサービスです。夜間も対応するために、台所や浴室のある保育室が設置され、夜間対応の職員が待機しています。このサービスは横浜市内の2カ所のみで実施されており、神奈川区内の関係機関はもとより、他区の関係機関との連携を持って実施しています。また地域住民に向けた育児講座を年間6,7回の頻度で開催しています、さらに、毎年「子どもを語る会」として、外部講師による講座や職員の研究発表の会を開催しています。地域子育て支援の一環として、保育園と地域を結ぶ「子育て新聞」も毎月発行し、園の掲示板やホームページ上に掲載しています。育児相談については、平日の8:30～16:30まで受け付けており、相談の内容により、保育士、栄養士、医師等につなげる体制があります。

2. 今後の工夫が期待される点

●各種文書類の整備をしていくことが期待されます

園は創立から62年を迎えようとする、歴史ある保育園です。これまで地域の子育て拠点としての機能も果たしています。しかし、保育を取り巻く環境が大きく変化しており、次代に向けて今後の工夫が期待される点が見られました。それは各種文書類の整備です。例えば中長期計画は園として構想は持っていますが、明文化されていません。職員の自己評価、園の自己評価なども形式がないため、今後は各書式を作成し、計画や自己評価の視点を決めて、それに基づいて期初の目標と期末の達成度の評価を実施していくことが期待されます。また、職員の経験・能力や習熟度に応じた役割、期待水準を定めた人材育成計画の作成が期待されます。マニュアルについても清掃マニュアル、環境への配慮を盛り込んだマニュアルなど、園としてはすでに構想されているようですので、今後整備されることが期待されます。




●保護者とのコミュニケーションをより活発にしていくことが期待されます


保護者とのコミュニケーションについて、園からの働きかけは積極的におこなわれていますが、今回のアンケート調査結果では、園と保護者との連携・交流についての設問に対する満足度が相対的に低い数値でした。たとえば、「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」では不満が25%、「園の行事の開催日や時間帯への配慮」でも28%と高い不満割合となっています。さらに、職員の対応に関し「意見や要望への対応について」では、2割の保護者が不満と回答しています。このように、園が保護者の意見や要望を把握して、対応する仕組みがやや不足していると考えられます。保護者とのコミュニケーションのあり方を工夫し、苦情だけでなく、要望や意見も積極的に把握し、その対応の記録も蓄積して、園運営に活かしていくことが期待されます。


◆ 分類別評価結果 ◆


3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

<p>評価分類 I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> • 保育理念は「地域の母親たちの要求から生まれた共同保育の精神を受け継ぎ、「保育は幼児教育である」として子ども一人ひとりの全面発展を保証する」としています。保育目標は「・ともだちの中で全身を使って思いっきり遊べる子をめざす。・子育てという重大な仕事を父母 地域との連携をさらに深めながらおしすすめる」となっています。さらに、「あおぞら保育園は、未来を担う子どもたちの健やかな成長発達を目指し、父母、地域の皆さんとともに手をつないで子育てしていきたいと考えています」としています。 • 保育課程は、子どもの発達過程の特性を記載し、それに対応した保育の内容を記載しており、子どもの利益を第一義にしています。 • 保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画、月案、週案が作成されています。 	
<p>評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> • 入園時、保護者の面接を行っています。保護者と直接話をしながら、子どもの様子を観察して把握しています。 • 0歳児は担当制をとっており、主担当保育士が決まっています。 • 乳児、幼児とも連絡ノートを用意して、保護者との間で毎日、密な連絡を行っています。 • 月案について毎月振り返りを実施し、子どもの状況に応じた評価・見直しを行っています。 • 日常的な保護者との会話などから、保護者の意向や考え方を把握して、指導計画を作成するときに活かしています。 	
<p>評価分類 I-3 快適な施設環境の確保</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> • 保育室は、開口部を大きくしており、陽光を十分取り入れられる構造となっています。 • 0歳児の保育室には沐浴設備が備えられています。乳児トイレには、温水シャワー設備が整えられています。 • 0歳児、1歳児の保育室は、グループの保育ができるように小さく仕切られています。 • 1階と2階にそれぞれ大きなホールがあり、日常的に異年齢が触れ合う場となっています。 	

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 0～2歳までの子どもの個別指導計画を作成しています。 • トイレトレーニングや、離乳食、あるいは除去食などについては、保護者と相談して、個別指導計画に反映させています。 • 家庭の状況、健康状態、保護者の要望等は児童票に記載しています。入園後の成長記録は児童経過表に記載しています。 	


評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 特に配慮を要する子どもについては職員会議やクラス保育検討会議のケースカンファレンスで話し合われており、記録されています。 • 障がいのある子どもと他の子どもとの関わりに配慮しています。他の子どもが障がいのある子どもの面倒をみるような優しさをもつ場面が見られます。 • 東部地域療育センターと連携しており、助言や情報が得られる体制があります。 • これまで虐待が明白になったケースはありませんが、神奈川区子ども家庭支援課や中央児童相談所に連絡する体制をとっています。 • 新入園時にアレルギー調査をしており、必要な場合には医療機関の指示書を提出してもらっています。 • 除去食を提供するときには、給食トレーに名前を書いて確認しています。 • 現在、外国籍の子どもはいませんが、外国籍の子どもが入園した場合には、文化や生活習慣の違いについて他の子どもたちが理解できるように配慮しています。 	


評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 入園・進級のしおりに第三者委員の名前と電話番号が記載されており、直接苦情を申し立てることができます。 • 子どもの普段の行動や様子から、意向や要望を受け止めようとしており、保護者からは連絡帳で要望や意見を出してもらっています。 • 園とは別に、法人の「社会福祉法人あおぞら苦情解決規定」がつくられており、園と並行して苦情解決調整委員会が設置されています。 • 保護者懇談会で保護者の要望や意見を出してもらっています。父母の会（保護者会）で、独自にアンケートを実施しており、その結果を知らせてもらっています。 	


評価領域Ⅱ サービスの実施内容


評価分類Ⅱ－1 保育内容【遊び】	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・1クラスの園児数が多い大規模園ですが、子どもが落ち着いて遊べるように、保育室内を分割したり、小さな独立した部屋を設けたり、畳やマットでコーナーを多く設ける等、クラス毎に様々な工夫をしています。 ・子どもたちは、数人でのブロック遊びやままごと遊び、一人で絵本読みや折り紙・手芸等、それぞれ自由に遊んでいます。 ・一斉活動において子どもたちは、全員で何かが出来ようになる達成感や、全員で競い合う楽しさや悔しさを体験しながら、友だちを応援する気持ちや、遊びの約束事等を学んでいます。 ・子どもたちは、園庭の一角の畑や、地域の農家から農地を借りた「あおぞら畑」で、野菜を育て収穫を楽しむ体験をしています。又、園庭に柑橘類の木を植え、蝶々の生態を自然の中で観察できるようにしたり、畑で藍を育て、自分たちで藍染めしたバンダナを行事で使用したりするなど様々な取り組みを通して保育活動に反映しています。 ・保育室には、お絵かき用の紙や折り紙、クレヨン・サインペン等々を十分に用意し、子どもたちが自由に取り出してお絵かきや工作をしています。 ・子ども同士のけんかについては、発語が未発達な乳児には危険の無いように見守り双方の気持ちを代弁しています。成長に伴い、徐々に子ども同士で解決出来るように仲立ちしています。 ・散歩は、園に最も近い岸根公園を始めとして多くのコースを設定しています。散歩の距離やコースの特徴、公園内の場所ごとの遊びのねらい等を、写真入りでファイルし、子どもの発達に応じた選択をしています。 	


評価分類Ⅱ－1 保育内容【生活】	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは年齢に応じた給食準備や後片付けを行っています。自分の食器の片付けから始まり、盛り付けられた給食の配膳を経験し、5歳児クラスになると当番の子どもが給食の盛り付けと配膳までをするようになり、子どもが自分で出来ることを次第に増やしています。 ・季節感のある給食として、旬の食材を取り入れたり、行事食を取り入れたりするなどの工夫をしています。七草・節分・ひな祭り・子どもの日・ハロウィン・クリスマス等の行事食の他、毎月のお誕生日会特別メニューや、5歳児クラスの卒園前にはリクエストメニューなども提供しています。 ・給食の食材については、地産地消にこだわり安全な食材を調達しています。特に野菜については、親しく交流する近隣のキャベツ農家が、キャベツだけでなく園給食用の為に他の野菜も安全に育てて納品してくれています。他にも近隣農園主から子どもが稲穂を見せてもらったり米や野菜を頂くなど、子どもたちの食生活を地域の人々にも支えてもらっています。 ・子どもの苦手なものや食事量を把握し、予め量を加減したり子どもが減らして欲しいことを伝えたりすることで、子どもが残さず食べられたと、感じられるように配慮しています。 ・毎日の給食サンプルを玄関ホールに展示し、お迎えの保護者に見てもらえるようにしています。 ・乳幼児突然死症候群の予防対策として、0・1歳児、及び新入園児と24時間型緊急一時保育児童について、5分毎の呼吸チェックを行っています。 ・園では紙おむつに比べ交換の頻度が多く保育者とのスキンシップをより多く持てることを利点と考え、布おむつを使用しています。子ども一人一人の排泄リズムを捉えた援助を行っています。 	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 園児それぞれの「児童健康台帳」を整えています。子どもの既往症を始めとして、予防接種の記録・アレルギーの有無・毎月の身体測定結果や健康診断の結果・かかりつけ医名等を記載しています。毎年一度台帳を保護者に渡し、内容に変化がある場合には追記して園に戻してもらっています。 年２回の健康診断、年１回の歯科健診、毎月の身体測定、年１回の４歳児対象の視聴覚健診と３歳児以上の尿検査を実施し、結果を記録に残しています。 保育中に、発熱や嘔吐等の症状が現われた場合には、速やかに保護者に連絡し、子どもは職員休憩室で職員がついて休ませ、迎えの保護者を待つようにしています。園内で感染症が発症した場合には、玄関ホール内の「保健掲示板」に発生クラス名と状況を明記して速やかに掲示し、保護者に注意を呼び掛けています。 	


評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理に関する研修は、入職時の新人研修の他、毎年３月に全職員対象の園内研修を実施しています。又、季節的な流行が予想される感染症対策の実践研修は、職員会議で実施しています。 清掃担当の用務員２名が、共有部分の清掃を丁寧に行い清潔が保たれています。保育室内はシフトによる職員の業務分担で適切な清掃を行っています。しかし、清掃に関するマニュアルや清掃のチェックリストがありません。今後も現在と同様の清潔な状態を保つために、清掃部分のマニュアル整備が期待されます。 	


評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 運営法人で定めた「危機・安全管理マニュアル」があります。このマニュアルは、保育業務全般についての対応を示したもので、各保育室に備えると共に全職員に配付しています。 毎年、日本赤十字社による「幼児安全法」研修を、全職員が受講しています。AEDの使用法実技・心肺蘇生法実技・異物除去法・アナフィラキシー対応等の内容です。 保育中に起きた子どもの事故については、発生時間及び状況の緊急度に応じて、その日のうちに緊急会議を招集または、次の日の朝礼で職員に報告して事故の内容を共有し、職員会議で再発防止対策を検討しています。 不審者対策として、不審者侵入を想定した避難訓練を実施しています。又、緊急時の連絡先を一覧にして事務室に備え、且つ各保育室には緊急時の通報手順を掲示しています。 	

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 保育士は一人一人の子どもの言葉や気持ちを受け止める保育を行っています。子どもの呼び方については、入園時に保護者から家庭での呼び方を聞き取り、家庭と同じ呼び方をしています。 子どもが友だちと一緒にいたくない時には、保育士が一对一で付き添いホールや園庭、又は２４時間型緊急一時保育室の畳敷きの部屋等を利用して、子どもの気持ちが落ち着きを取り戻すように配慮しています。 運営法人の危機管理マニュアルに守秘義務について定めた項目を設けています。危機管理マニュアルは各保育室に備えている他、全職員に配付しています。ボランティア・実習生に対しては事前のオリエンテーションで説明しています。 職員が子どもや保護者に、父親・母親の役割を固定的に話すことはありません。 	


<p>評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 保育の基本方針については、新入園の保護者には入園説明会で、在園児の保護者には年度初めの懇談会で説明しています。 • 連絡帳での情報交換は、5歳児クラスまでの全園児保護者と行っています。0、1、2才児クラスは所定のノートを用い、3歳児以上のクラスでは、自由記述式のノートを用いています。 • 保護者からの相談には、図書室（保育室と離れた独立した部屋）を用意し、落ち着いて相談できるように配慮しています。 • 「クラス通信」を、月1回と定めず月に数回の頻度で発行し、きめ細かい情報提供を行っています。「ほけんだより」「給食だより」を毎月発行しています。又、園内の壁面をふんだんに使い、保育の様子を折々に写真で掲示しています。 • 0、1、2歳児クラスについては、子どもから保護者が見えない形の保育参観を、3歳児以上のクラスについては保育参加を受け入れています。どちらについても、年に一度保育参観週間を設けて都合のよい日を選択してもらっていますが、希望があれば随時受け入れています。 • 父母の会（保護者会）の歴史が長く、新年マラソン大会・盆おどり・大掃除については、父母の会主催行事に園が参加して共催となった経緯があります。園との共催行事以外においても保護者の様々な協力があり、良好な関係が構築されています。 	


評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県保育園子育て連絡会に参加し、「みんな de 子育てワイワイパーク」（保育士による遊びの提供）開催時には、地域の親子連れから直接子育て支援に関する要望を聞き取る機会となっています。 ・ 園は地域の母親たちの切実なニーズから設立した歴史があり、地域への子育て支援に関して熱心な取り組みが数多くあります。一時保育・交流保育・園庭開放・プール開放・赤ちゃんの駅その他、台所や風呂を備えた独立した部屋を用意して24時間型緊急一時保育を行っています。 ・ 地域住民に向けた育児講座を手作りおやつ・離乳食・子どもの病気とケガなどのテーマで年間6,7回の頻度で開催しています。又毎年、保護者・職員・地域を対象とした「子どもを語る会」を、外部講師による講座や職員の研究発表の会として開催しています。 	

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域子育て支援として、保育園と地域を結ぶ「子育て新聞」を毎月発行し、園の掲示板やホームページ上に掲載しています。「子育て新聞」は、地元の銀行・郵便局・産婦人科医院・地域子育て支援拠点かなーちえ等にも置いています。 ・ 育児相談については、月曜日から金曜日の8:30から16:30まで受け付けています。相談の内容により、保育士・栄養士・医師等につなげる体制があります。 ・ 24時間型緊急一時保育は、横浜市内に2ヶ所のみでの施設であり、神奈川県内の関係機関はもとより、他区の関係機関との連携も持っています。 	


評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り・運動会・焼き芋パーティー・お楽しみ会・豆まき・ひな祭り・新年マラソン大会等、多くの園行事に地域住民を招待しています。 ・近隣中学校の授業の一環として、中学生の受け入れを例年行っています。中学生からは園児にメッセージが届き、親しい交流があります。 ・「お楽しみ会」には、姉妹園や近隣他園を招待し、園児と共に人形劇を楽しんでもらっています。近隣の小規模園に園の行事に参加してもらったり、幼保小教育連携事業の一環として近隣小学校と運動会に招待し合う等の交流もしています。 	


評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページがあり、園の基本方針やサービス内容等の情報を掲載し、わかりやすく丁寧な情報提供をしています。 ・園見学希望者には、午前中の子どもたちの活動の様子を見てもらえる時間帯を勧めています。さらに見学者に子どもたちの散歩に同行してもらい、外遊びの様子も見てもらっています。 	


評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生受け入れの為にマニュアルとして、「ボランティア・保育体験活動に参加されるみなさまへ」を作成し活動前のオリエンテーションでは、このマニュアルに基づいて園の方針や利用者への配慮などを説明しています。 ・中学生・高校生の職業体験、卒園児（小学生・中学生）による夏休み期間の「お兄ちゃんお姉ちゃん先生体験」の受け入れをしています。 ・保育士の実習生・栄養士や看護師の実習生・小学校教職員の新人研修等、多くの実習生を積極的に受け入れています。実習生受け入れ時は各月の行事予定やクラス通信に載せて保護者に配付し保護者に理解を求めています。 ・実習終了時には担任保育士・園長・主任等が同席して実習生との意見交換の場を設けています。 	


評価領域V 人材育成・援助技術の向上


評価分類V-1 職員の人材育成	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">園運営に十分な人材構成となるように、職員の充足状況を常にチェックしながら、必要に応じて人材の補充を実施しています。園内研修が定期的実施されており、誰でも参加することができます。また、全国保育団体合同研究集会に参加し、研究発表をおこなうなど、園外の大会にも積極的に参加しています。園内研修には非常勤職員も参加しており、資質向上への取り組みを行っています。職員は年度の前期と後期にそれぞれ自己評価を実施しています。ただし、自己評価には期初の目標を設定しておらず、さらに、達成度の評価も行っておりません。今後、自己評価の視点を決めて、それに基づいて期初の目標と期末の達成度の評価を実施していくことが期待されます。	

評価分類V-2 職員の技術の向上	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">自然と遊び、表現遊びなどテーマ別に外部の講師を招聘し、実際のワークショップを行うなど、外部の専門家からの技術の指導を受ける仕組みがあります。保育士は月間指導計画で振り返りを行い、さらに自己評価は前期と後期に1回ずつ行っています。月間指導計画については、クラス保育検討会議で話し合っています。保育園としての自己評価は行われていません。今後、自己評価の仕組みと、形式を作成して園としての自己評価を実施する仕組みを作っていくことが期待されます。	

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">職員の経験・能力や習熟度に応じた役割、期待水準が示されていません。今後、それぞれの職員の能力向上、研修計画策定のためにも役割や能力の期待水準を明確にし、人材育成していくことが期待されます。現場の職員には、それぞれの役割に応じて権限が委譲されています。前期、後期に職員の自己評価を行っており、希望者には園長が面接するようにして、職員の満足度や要望などを把握しています。しかし、職員全員ではないので、今後は、希望者ではなく全職員の満足度や要望を聴取するための面接等を行うことが期待されます。	

<p>評価分類VI-1 経営における社会的責任</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 就業規則の中のサービス規程に、職員として守るべき規定が示されており、職員全員に配布されています。 • 電気をこまめに消したり、床暖房の電気を不要の時には切るなどして省エネルギーに取り組んでいます。 • 環境に配慮するための考え方や取り組みが文書化されていません。今後、環境に配慮する考え方や取り組みを決めて文書化し、運営に活かしていくことが期待されます。 	

<p>評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 毎年、全職員で年度初めに保育理念・保育方針を確認しています。基本理念・基本姿勢が作成されてきた経緯も年1回研修会を行い、学習しています。 • 園舎の改築、新規園の運営計画など重要な事案に関して、保護者会へ説明しています。 • 法人3園の職員研修として、管理者、主任、副部主任クラスのプログラムがあります。主任はクラスを持たず、現場に入りつつ職員の業務を把握しています。 	

<p>評価分類VI-3 効率的な運営</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 法人の園長会で事業運営に影響のある情報は報告されています。園長主任会議、リーダー会議で重要な情報は共有しており、園の課題として設定されています。 • 中長期的な構想は持っていますが、それを計画という形で文章化したものではありません。今後の事業の方向性を明文化していくことが期待されます。 • 法人として、弁護士等に事業運営に関して意見を求めています。 	

◆利用者家族アンケート分析◆

【実施概要】

- 実施期間：平成 28 年 11 月 14 日～平成 28 年 11 月 28 日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率：配付 133 件、回収 65 件、回収率 48.9%

【結果の特徴】

*文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した結果です。

問1「園の基本方針を知っているか」についての質問では「よく知っている」が 30.9%、「まあ知っている」が 55.9%で合わせて 86.8%、「知っている」と回答した中で、「賛同できる」が 52.5%、「まあ賛同できる」が 47.5%で、合わせて 100%、すべての保護者が賛同していました。

個別の質問項目で満足度が高い項目は問4の日常の保育内容についての中での「遊び」という項目でした。「クラスの活動や遊びについて」「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」という項目では 100%の満足度となっています。他の項目でも、すべての項目で 90%を超えていました。同じように、「生活」でも、90%を超える満足度となっている項目多くあります。「基本的生活習慣の自立に向けての取り組みについて」「お子さんが給食を楽しんでいるか」では 95%を超える満足度でした。

問7の「職員の対応について」では満足度が高い項目が目立ちました。「あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについて」「話しやすい雰囲気、態度であるかどうか」「あなたのお子さんが大切にされているかについて」では満足度が 95%を超えていました。自由回答でも「担任の先生には、子供 1 人 1 人の性格、性質をよく見てくださって、ゆっくり寄り添ってよい所を引き出してもらっている」「いつもあたたかく見守り、よりよい成長へと導いていただき感謝しています」といった意見が見られました。

今回のアンケート調査で最も不満が高かった項目が問5の「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」の不満度（「不満」＋「どちらかという不満」の割合）で 55.9%と半数を超えていました。また、「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」でも不満度が 17.6%と相対的に高い数値でした。自由回答でも「不審者対策ができていない。早朝など人が少ない時はだれにも会うことなく保育室まで容易に入ることができる」といった意見がみられます。

今回のアンケート調査で、不満が多かった項目が問6の園と保護者との連携・交流についての項目でした。「園の行事の開催日や時間帯への配慮について」で不満度（「不満」＋「どちらかという不満」）が 27.9%、「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」で 25%でした。問6以外でも問4で「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応について」（19.6%）、問7の「意見や要望への対応について」（20.6%）とコミュニケーションに対する不満度が高いようでした。自由回答でも「行事など、親の負担が非常に重い」「園の事情だけではなく、保護者の思いを汲み取ってほしいと感じることがある」といった意見が見られました。

園の総合満足度では「満足」が 58.2%、「どちらかといえば満足」が 34.3%と合わせると 92.5%と 9 割を超える満足度でした。

あおぞら保育園 利用者家族アンケート集計結果

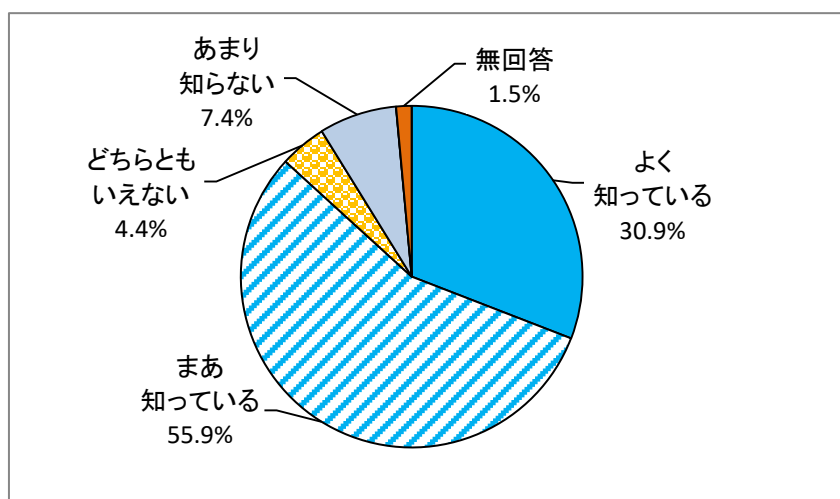
実 施 期 間	平成28年11月14日～11月28日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	133 件
有 効 回 答 数	65 件
回 収 率	48.9 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	6	10	15	15	11	9	2	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

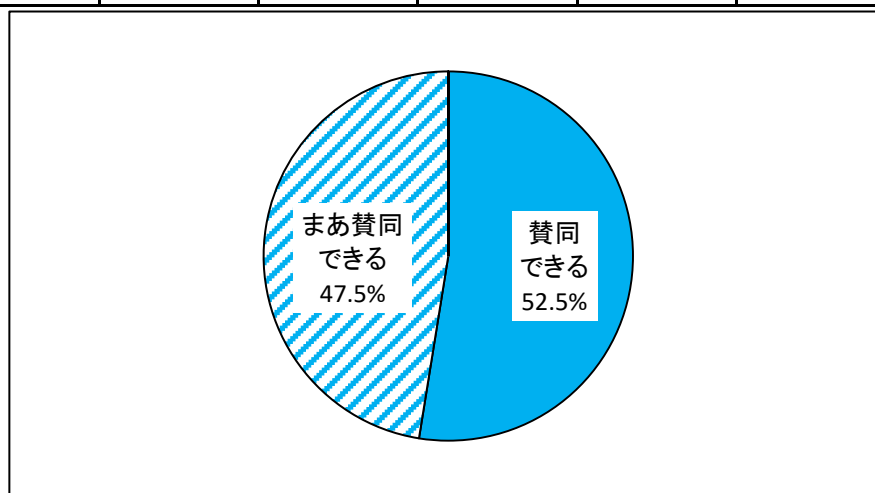
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	30.9	55.9	4.4	7.4	0.0	1.5	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	52.5	47.5	0.0	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	44.1	30.8	1.5	1.5	22.1	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	32.4	45.6	7.4	2.9	11.8	0.0	
園の目標や方針についての説明には	38.2	45.6	7.4	1.5	7.4	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	58.8	33.8	2.9	0.0	2.9	1.5	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	55.9	39.7	0.0	0.0	2.9	1.5	
費用やきまりに関する説明については	42.6	38.2	7.4	5.9	5.9	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	48.5	47.1	1.5	1.5	1.5	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33.8	45.6	10.3	4.4	5.9	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	79.4	20.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	88.2	10.3	0.0	0.0	1.5	0.0	
園のおもちゃや教材については	72.0	20.6	5.9	0.0	0.0	1.5	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	85.3	14.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	79.4	19.1	1.5	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	75.0	23.5	0.0	0.0	0.0	1.5	

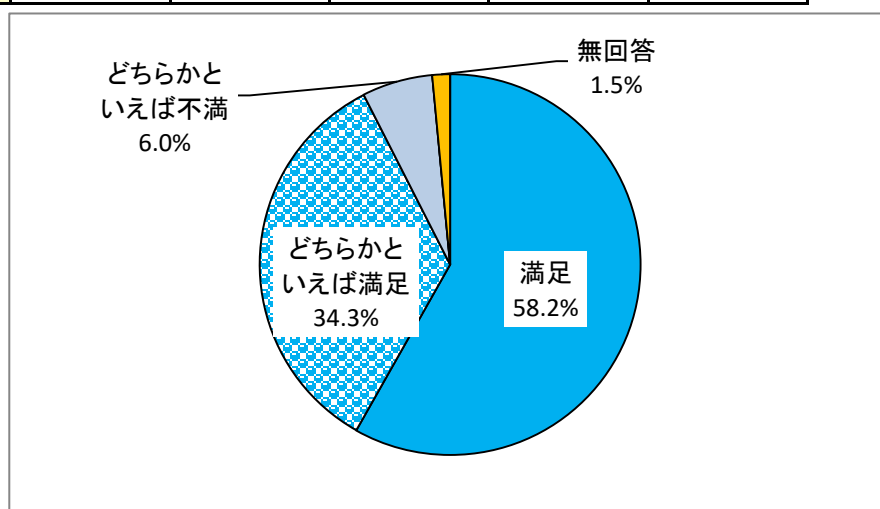
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	72.1	22.1	1.5	2.9	1.5	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	73.5	23.5	1.5	0.0	1.5	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	67.6	30.9	0.0	1.5	0.0	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	66.2	22.1	5.9	2.9	2.9	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	54.4	32.4	4.4	2.9	5.9	0.0	
お子さんの体調への気配りについては	57.4	33.8	4.4	4.4	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	51.5	25.0	8.8	11.8	2.9	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	38.2	48.5	11.8	1.5	0.0	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	61.8	27.9	8.8	1.5	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	10.3	27.9	30.9	25.0	4.4	1.5	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	35.3	44.1	13.2	4.4	2.9	0.0	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	54.4	29.4	10.3	5.9	0.0	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	55.9	41.2	1.5	0.0	1.5	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	35.3	33.8	14.7	13.2	2.9	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	33.8	39.7	20.6	4.4	1.5	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	48.5	39.7	7.4	2.9	1.5	0.0	
保護者からの相談事への対応には	55.9	32.4	8.8	2.9	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	64.7	25.0	7.4	1.5	1.5	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	66.2	30.9	1.5	1.5	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	79.4	19.1	1.5	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	51.4	33.8	1.4	2.9	7.3	2.9	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	64.7	32.4	2.9	0.0	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	39.7	39.7	10.3	10.3	0.0	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	58.2	34.3	6.0	0.0	1.5	



◆利用者本人調査◆

【実施概要】

- 実施日時：平成28年 1月18日、 1月20日
- 実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

広い保育室内の両側に月齢差で分けた2グループそれぞれの小さな部屋があり、小さな部屋と大きな部屋を活動や生活場面で使い分けています。朝の時間はどちらのグループも小さな部屋で、保育士に絵本を読んでもらったり、おもちゃで遊んだりして、過ごしています。

カートに乗る子どもと歩く子どもで、散歩に出かけます。保育士が、途中の目に入る物を、「お花きれいね」「ワンワンいるね」と、話しかけながら歩きます。子どもたちは一つ一つに恋えて目で追い、手で追いつながらの楽しい散歩です。公園の緩やかな斜面が、子どもたちの遊び場です。よちよち歩きで、冬枯れの草の斜面を「よーいどん」「まてまて」などの保育士の声に大喜びで昇り降りする子どもたちです。大きな木に隠れて「いないいないばー」をしてもらっている子どももいます。保育士の胸にしっかり抱かれて斜面をごろごろ転がる遊びは大人気です。大木の根元に太い根が地表に出て、大きな窪みが出来ている場所がごっこ遊びのお風呂になっています。みんなが窪みの中にくっついて座っています。「おふろだよ」「ごしごし」「たのしいね」、可愛い赤ちゃんの笑顔が並んでいます。

●1歳児クラス

朝の会では、保育士が歌を歌いながら、一人ずつに「あなたのお名前は？」と聞いています。問われた子どもは、自分の名前を答え、保育士に「上手！」とほめてもらっています。「お背中ぴん、元気な声でおはようございます」には、全員が大きな声でご挨拶もできました。

朝のおやつを食べ終わり、保育士からトイレに誘われています。便座に座ってみる練習や、保育士に準備してもらったズボンを自分ではく事にも挑戦しています。月齢の差で、クラスの子どもの出来ることは一様ではありませんが、それぞれに自分で出来ることが毎日のように増えていく子どもたちです。

午前の活動は保育室内で雪だるまの制作です。黒い画用紙が1枚ずつ配られました。画用紙に白い絵の具をつけたはんこを、ペタンペタンと押して白い色をたくさんつけていきます。紙を雪だるまの形に切ってもらい、子どもが目と鼻のシールをつけて出来上がりです。保育室に貼ってある大きな雪だるまに子どもたちの作った可愛い雪だるまが加わりました。

●2歳児クラス

帽子をかぶりジャンパーを着て、散歩の準備が始まっています。出入口では、保育士に「靴をちゃんとはいてね」と、声をかけられています。みんなの支度が整いました。縄電車（散歩用のロープ）を握って、通いなれた散歩道を歩きます。靴が脱げてしまったり、立ち止まってしまう友だちには、みんなで一緒に歩けるように、止まって待ってあげる約束です。公園に着くと、二人ずつ手をつないで目的地に行く予定ですが、「〇〇ちゃんとは嫌」や「先生とがいい」等の小さな揉め事が起きています。保育士がしゃがんで一人一人の気持ちを聞き、「どうしようか」と話し合っています。保育士に話を聞いてもらって気持ちが落ち着いた子どもたちは機嫌も直り手をつないで歩き始めました。

公園では、滑り台・ブランコ・鉄棒・砂場等々、それぞれお気に入りの遊具や場所で遊びます。走り回って転んだり、友だち同士の小さなけんかもありますが、すぐに遊びに戻っていきます。

●3歳児クラス

朝の自由遊び時間、保育室では、子どもたちが絵本やブロックで遊んでいます。これから公園で遊ぶ凧を作るという子どもが、スーパーのビニール袋にマジックで絵を描いています。大きな声で歌を歌っている子どももいます。

公園で凧揚げが始まりました。最初に保育士が見本を示し、グループ毎に分かれての凧揚げです。凧はなかなか上手にあがりませんが、子どもたちは順番に凧を持って走りまわるだけでも十分楽しそうです。

急勾配の斜面が広がる場所では、全速力で昇り降りする子どもや、保育士と手をつないで歩く子ども、木登りや、木の枝で穴を掘る子ども、思い思いの公園遊びです。整備の行き届いた公園ですが、少し長さのある枯れ草が残っている一角を見つけた子どもが「クッション」と言って、気持ちよさそうに寝転がっています。保育士の持つ、凧が入った大きなビニール袋を、サンタクロースが持っているプレゼントの袋に見立てた遊びも始まっています。保育士に、寝ている子ども役になってもらい、そーっと枕元に置いて走り去るサンタさんごっこが、何回も続いています。

●4歳児クラス

公園に散歩に出かけます。歩く途中や公園で、子ども同士の小さな言い争いも起こりますが、両方が納得するまで、保育士が話を聞き子ども同士で話し合うように、傍らで見守ります。仲直りが出来て保育士から「じゃあ遊びに行こうか」と言われてけんかはおしまいです。クラスにはのんびり歩く友だちもいて、みんなが歩くスピードに遅れがちですが、すぐに手助けをする子どもが駆け付けます。手をつないで「行こう」と言って一緒に走り、みんなの列に合流しています。

食事の時間が近づき、お当番さんがテーブル拭き、ごはん・汁・サラダの盛り付け・配膳と役割分担し、てきぱきと準備を進めています。準備が整うと当番以外の子どもたちもランチルームに集まります。園は日頃から近隣の農家との交流があり、食べ物を大切にすることを理解している子どもたちが「ご飯粒には7人の神様が入っているから、一粒も残してはいけないんだよ」と、話しています。

●5歳児クラス

保育室内は朝からとても元気な「いらっしゃいませー！」の音が飛び交っています。ハンバーガー屋さんごっこが始まっています。7・8人の子どもたちが、商品や入れ物、調理器具、メニュー等々、たくさんの物を色紙で作っています。ハンバーガーやストローをさした飲み物、ポテトの入った袋には店のマークも切り抜いて貼ってあり、何から何まで本物そっくりの出来栄です。子どもたちは調理する人、販売員、お客さんに分かれてごっこ遊びです。隣のテーブルでは小さなブロックで作品作りをするグループがいます。飛行機・タンカー・空想の怪獣等が生まれています。出来上がった作品は月曜日から金曜日まではおもちゃの棚の上に飾って置いていい約束です。1週間分の作品がたくさん並んでいます。

観察日は、全員で小学校を訪問をする日で、出かける前の準備がいくつかありました。小学校では、体育館でパラバルーンの演技を披露することになっています。普段は裸足で生活している子どもたちですが、体育館は寒いので靴下や上着を着ます。体育館ではく上履きも、自分のリュックに入れました。出かける前の演技リハーサルのために、ホールには大きなパラバルーンが用意されています。今まで何度も練習してきた演技です。音楽に合わせて、子どもたちは生き生きとダンスし大きくバルーンを膨らませ、バルーンの形を変化させます。リハーサルも終え、子どもたちは嬉しそうに小学校に向かいました。

◆ 事業者コメント ◆

わたしども社会福祉法人あおぞらは、「子どもを真ん中に」を柱に、「ともだちの中で全身を使って思いっきり遊べる子をめざす」「子育てという重大な仕事を父母・地域との連携をさらに深めながらおしすすめる」という保育目標のもとに日々の保育を進めています。今回第三者評価によって、「保育士の三つの保育姿勢」すなわち、(1) 保育士は徹底的に子どもの立場に立ち、今ある子どもの姿から出発し、一人ひとりの要求、発達段階を大切にして保育を進める。(2) 保育士は、子どもの伸びようとする力を全面的に信頼し、子どもの個性が集団の中で良さとして発揮できるような集団づくりをめざす。(3) 子ども、父母、保育士、みんながお互いの立場を尊重しあい、率直に、ものをいいあい行動できるよう、民主的な集団づくりをめざす。のそれぞれが達成できているかを確認していただく貴重な機会でもありました。

第三者評価を受けるにあたって、職員全員で取り組んできました。クラスで一項目ずつ自己評価をしていき、職員会議の場で発表しあうなかで、ここはどういう意味だろう、どう捉えればいいのかのだろう等、質問や意見等が出てきました。討議を重ねる中で、職員一人一人が保育園の細部まで理解しようとし、新たなことにも気づいていきました。この過程が、今回の取り組みで最も大きな成果だったと思っています。総合評価の高く評価できる点に、子どもたちが主体性を尊重されながら自由にのびのびと生活を楽しんでいること、地域支援活動への取組を挙げていただいたことは保育目標を実現していくための実践評価につながり、とてもうれしく思いました。

又、課題として感じていても後回しにして来ていた事柄と保護者とのコミュニケーションが評価の結果として挙げられましたので、速やかに改善に取り組んでいきたいと思えます。

利用者アンケートでは満足度 92.5 パーセントの総合評価をいただきました。しかし個々の質問に対しては、保育園の保育目標や保育方針について「あまり知らない」と「どちらとも言えない」が計 12%近くあり、また不満のポイントが高い項目ひとつひとつと合わせて改善を図っていきたいと思えます。

今回「第三者評価受審」を受けて園や保育のこと等、自分たちで振り返り、考えたり話し合うことで意識が深まり、お互いの理解になって本当に良かったと思えました。ご協力いただいた保護者の皆さま、丁寧に調査と評価をしていただきました評価機関よこはま地域福祉研究センターの方々に感謝申し上げます。報告書の中の課題・望まれる点の実現に引き続き努めていきたいと思えます。

福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : www.yresearch-center.jp/ E mail : top@yresearch-center.jp



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02
